

○社会福祉審議会 地域福祉専門分科会 委員意見一覧及び事務局説明

委員の意見・質問	事務局の説明
<p>○基本的には丁寧に、アウトプット、アウトカム評価をされていると思います。</p> <p>○コロナ禍で実際の数値はほとんど下がると思います。(特に活動系)改めて、コロナ禍での数値設定を検討する必要があるかもしれません。</p> <p>○重層的支援体制の仕組みづくりを八尾市としてどのように構築するのか、一定の方針を示しながら計画推進することが求められると思います。</p> <p>○つなげる支援室や断らない相談のための地域ケア会議がありますが、その間の仕組みどのように作るのかが重要だと思います。またそこでのコーディネーターの役割も重要で、その人を財源面も含めて施策として示していくことも大切だと思います。</p>	<p>○コロナ禍に対応した数値目標の設定をすることは想定しておりませんが、まずは、コロナ禍での経験を活かした様々な取り組みにより、数値目標を達成できるように工夫した上で、評価してまいります。</p> <p>○重層的支援体制の仕組みづくりについては、つなげる支援室が中心となり、現在、庁内関係部署による体制整備会議を設置し、専門職など関係機関が連携して対応できる「断らない相談支援」の体制を強化するとともに、課題を抱えた方が、地域での生活を継続できるよう、地域場づくりや参加する機会を確保する仕組みづくりを進めているところです。</p> <p>本分科会の委員の皆様と関係機関と協議のうえ「重層的支援体制整備事業実施計画」の策定を進め、重層的支援体制整備事業を令和5年度にスタートできるよう進めてまいります。</p> <p>○「断らない相談支援」の体制においては、それぞれの相談窓口が困りごとを受け止め、抱えている課題に応じて、必要な支援機関で対応を行います。加えて、既存の組織では対応しきれないような複雑化、複合化した課題を抱える世帯の相談については、支援関係機関などから、つなげる支援室が相談を受け、課題を整理し、支援についての助言や関係者による会議を開催し、支援機関の役割分担や支援方針についてのコーディネート役を担っております。</p>
<p>(個別ではなく全体に関する意見)</p> <p>コロナ感染については来期も感染の波を繰り返すと思われる。今年度はコロナ禍で事業が予定通りできなかったとの報告があります。感染状況から開催方法を適宜調整し事業を展開していくことがウイズコロナの時期として求められます。なお、高齢者でWeb利用が難しい場合なども考えられます。参加者の状況にあった実施方法の検討が求められます。</p> <p>コロナ感染、濃厚接触や蔓延防止下での生活規制などで制限された自宅生活が長引き、結果、家庭内での虐待、暴力、就労減による経済問題、うつ、アルコール依存などの精神疾患の再発悪化、軽症の認知症や軽度の要介護者での病状の進行など、多くの問題が深刻となっています。個別的支援のしにくい時期ですが、今まで以上に支援が急がれます。今回の資料から八尾市では多方面からのサポート体制作りが出来上がっていますので、多くのネットワークから要支援者の早期発見、早期介入に結び付けていただくように求めます。</p> <p>コロナ禍では多因子による生活困難が生じているため、市役所での相談窓口が分かりにくい事例も多く発生します。地域共生課の他機関連携ネットワーク推進事業の取組にある。どこにもつながらない相談を受け止めてどこかにつなげてくれる総合受付としての役割は今まで以上に重要と思います。</p>	<p>○コロナ禍においては、さまざまな団体等が感染防止対策をとりながら、創意工夫して活動を行っており、その集積は、これからのウイズコロナの時期に活かされると考えています。特に、ICTの活用においては、高齢者などが身近な場所でweb利用が学べる場づくりや、身近な人から学べる人材の養成など、さまざまな方がweb利用を気軽に行える環境づくりを行い、本計画を進める取組みとして、しっかりと評価してまいります。</p> <p>○要支援者の早期発見、早期介入ができるよう、誰もが地域で孤立せず、異変があれば「気づく」「見つける」ことのできる地域の支えあいがあり、支援が必要な場合には、関係機関が対応できるネットワークが重要だと考えております。相談支援だけでなく、地域での受け皿となる居場所づくりや、社会参加の場へつなげるための支援についても一体的に進めてまいります。</p> <p>○市民がどの相談窓口に相談いただいても、困りごとをしっかりと受け止めて、抱えておられる課題に応じて、必要な支援機関に取り次ぐことができる体制づくりを進めております。ご意見でございます「多因子による生活困難」等、支援につながりにくいご相談につきましては、まずは生活困窮相談窓口にて受け止め、必要な支援につなげていく仕組みをとっております。さらに、課題が複雑化・複合化しており対応が難しい場合や、関係機関の連携がスムーズに進まないような場合には、つなげる支援室が総合調整役として、支援方針の決定等のコーディネーターを担っております。</p>
<p>1. 全体として</p> <p>資料1のまとめについては、基本的にアウトプット指標及びピックアップ指標の記載のみとなっている。アウトプット指標の性格から数量的な把握を優先することは理解できるが、取り組み内容(具体的に表記されており、非常にわかりやすい)に合致したピックアップ指標であるか、それ以外の取り組みもあるのではないかと感想を持ちます。</p> <p>例えば、2. 基本目標1 (3)見守り・早期発見の仕組みづくり では、地域の見つける力を「高め」「つなげる」のピックアップ指標に小地域ネットワーク活動の個別援助対象者数を記載しています。計画の取り組み内容を元に「目覚め」や「経験」などを把握する事例などを掲載したほうが良いのではないのでしょうか。</p> <p>また、3. 基本目標2 (1)幅広い市民の参加促進では、ピックアップ指標の一つに地域のサロンなどグループ援助活動の実態数を把握しており、社協として連携できると考えます。同様に、地域の権利擁護の推進では、市民後見人や成年後見だけでなく、介護や障がいのあるサービスや支援が「どの程度繋がっているか」などの視点も必要と感じます。</p> <p>以上より、ピックアップ指標は資料2でまとめているので、資料1では指標にこだわらず取り組み内容に応じた事業の実施状況など数値化できない取り組みも含めて標記いただいた方が実態の把握につながると考えます。</p>	<p>○本計画の点検・評価にあたっては、計画掲載のアウトカム・アウトプット指標によるものに加え、10の実行計画の進捗を58の取り組み内容にかかる事業や取組についてリストアップし、実施状況について確認を行うこととしています。本年度は、リストアップが、市事務事業のみとなっておりますが、それに関わる細かな取組についても確認が必要だと考えております。次年度については、計画にかかわるすべての取組などについて各事業担当所属などと調整しながら、順次リストアップを行い、該当する取組みのない事項については、創設へ向けた働きかけを行ってまいります。また、評価にあたっては、定量的なものに加え定性的な評価とあわせて行うことで、進捗状況がイメージしやすいものとなるよう努めてまいります。</p>
<p>○地域福祉のおもしろさを拡散する→どう云うおもしろい事が分かりにくいのでは？ ⇒地域福祉の大切さと参加することのおもしろさを拡散する</p> <p>○地域づくりのプロフェッショナルをつくる→気軽にプロを使うが、私の感覚ではプロは職業人でお金をもらっている人だと思う。 ⇒地域づくりのスペシャリストをつくる(又は達人が良いのではないのでしょうか?)</p> <p>②プロ⇒エキスパートを育てる</p> <p>③プロ⇒スペシャリストを育てる</p> <p>③さまざまな分野が支援に加わる場や機会をつくり、横の連携を深める (加筆)</p>	<p>○本計画は、福祉の各計画の上位計画の位置づけであることから、掲載している「具体的な取組み」などの各項目等については、枠組みが大きく、具体的な内容が見えにくい点があるかと思います。この点につきましては、毎年、各計画項目に合致する具体的な事業や取組みをリストアップし、それらの実施状況を確認していくことに加え、該当する取組みがないものについては、創設し、各項目達成への動きを見える化していくことで、具体性を持たせてまいります。</p> <p>また、頂戴しておりますご意見は計画の文言等に関するものと見受けられますので、中間見直しの際には左記表現への変更も含めて検討してまいります。</p>

委員の意見・質問	事務局の説明
<p>①〇地域福祉が目に入る機会を増やす。 ③△広告塔の代わり掲示板を利用出来ませんか。</p> <p>②〇大学生・民間企業さまざまな主体と地域をつなぐ。</p> <p>②△見つけたものを気軽に共有する、の言葉が気になります。</p> <p>③〇子供の頃から地域のおせっかいにふれる原体験をつくる。</p> <p>③〇社協・社会福祉法人やサービス事業者と一緒に福祉のプロを育てる。</p> <p>⑤〇困難なケースにもしっかりと向き合い支援できる専門職をつくる。</p>	<p>各実行計画ごとの具体的な取組み内容について、その方向性や実現の可能性を検証いただいたものと思います。具体的な取組み内容につきましては、毎年、各項目に係る具体的な事業や取組みの実施状況をみてその進捗を評価していくことで、各実行計画の達成への動きを見える化してまいります。</p> <p>〇1 (1) ①③ 掲示板も一つの広告塔に利用できると思いますので今後検討してまいります。また、様々な世代に対し情報の発信をしていくため、掲示板への掲示の仕方やICTを活用した広告を作成するなど、八尾市民がどこにいても福祉とつながることができるように検討をしていきたいと思います。</p> <p>〇1 (3) ②② 見つけた事象に対し一人で抱えるのではなく、受け止め先が必要であると思います。ここにおける気軽は情報を簡単に流すことではなく、抱え込まずに相談できる先があるといった意味合いでの気軽さを指しています。</p>
<p>〇福祉避難所の充実 ですが、福祉施設だけの体制では無理だし、コロナに対しては終息もつかない状態 一般避難所での受け入れへの研修とかをしたらどうでしょうか。</p>	<p>〇大規模災害が発生した場合には、福祉避難所の不足も想定されることから、市立の福祉施設など11の施設を活用することとしており、さらに、市内の社会福祉施設の人員や車両の提供、施設利用などが可能となるよう、個別に協定の締結に向けて協議を進めております。</p> <p>委員ご指摘の、指定避難所での受け入れにつきましては、今後福祉避難所の役割と機能を整理する中で、危機管理部局とも連携し検討してまいります。</p>
<p>〇デジタルサポーターの活動として コロナワクチン接種の申し込みなどはスマホ・パソコンが使いこなせると便利だが、高齢者には苦手な人が多い、デジタルサポーターの人達に指導をしていただき、高齢者のスマホ等の使い方を学べる場がほしい。コミセンなどで定期的の実施してはどうか。</p> <p>〇アウトカム指標について 施策事業の実施をいろいろ取り組まれているが数字にこだわりすぎなく、もう少し原点を見直してほしい。例えば、高齢者の人々にかかわりなく市民の皆さんがどうしたら参加してくれるか、高齢者の皆さんがどうしたら少しでも外に出てくれるか、どうしたら参加してくれるか、いろんな集まり等では同じ人達が多いので。</p>	<p>〇ICTの活用については、高齢者などが身近な場所でweb利用が学べる場づくりや、身近な人から学べる人材の養成など、さまざま方がweb利用を気軽に行える環境づくりを行っていきたくと考えております。具体的な取組みの一つとして、今年度志紀地区でデジタルサポーターの養成を実施していますが、その活動には、すでにボランティアをされている皆さんや地域団体の皆さんとの連携が欠かせません。次年度には、市内全圏域(5圏域)で行うことを目指しており、養成が終了した圏域では、コミセンなどでデジタルサポーターが活躍できるイベントなども企画することを考えております。</p> <p>〇アウトカム指標の数値の算出結果を客観的に計るものとして、市の行う具体的な取組に関連する活動指標実績をピックアップ指標としてまとめておりますが、その数字だけにこだわることなく、地域福祉を推進していくためのアイデアの創出や新しい取り組みを積極的に行ってまいります。</p>
<p>「つなげる支援室」に期待しています。八尾市に相談に行った方から、色々な窓口非常にスムーズにつながりとてもありがたかったという声をお聞きする機会がありました。逆に、何も教えてもらえなかったという声もあり、どうやら、最初に相談した窓口が違うと、つながる場所が違っていたようでした。福祉の支援が必要な人は単一の問題だけではない人がほとんどなので、コーディネートする人の重要性を大きく感じます。</p>	<p>〇つなげる支援室では、既存の組織では対応しきれないような複雑化・複合化した課題を抱える世帯の相談について、支援関係機関などから相談を受け、課題を整理し、支援についての助言や関係者による会議を開催し、支援方針についてのコーディネートを行っております。</p> <p>さらに、市民の潜在的な福祉課題に気づき、相談をしっかりと受け止められる市役所づくりに向け、八尾市福祉職の人材育成方針及び福祉職等相談対応職員への研修計画について策定を進めるとともに、今年度より、福祉に携わる職員に研修を実施し、全庁職員の窓口対応能力のスキルアップについてもツールや動画を作成するなど、誰ひとり取り残さない相談支援体制の強化と地域づくりを進めております。今後につきましても、引き続き市民のみなさまのご期待に応えていけるよう、つなげる支援室が中心となり、「断らない相談支援体制」の強化に取組んでまいります。</p>
<p>令和3年度に具体的な項目ごとに実行計画、具体的な取組みについて説明がありました。令和4年度からは、「絵に描いた餅」に終わらせないために「身近な地域で支援が届くしくみづくりについて、各地区町協での取り組みと進捗状況をまとめ公表し、具体的に進める、めったにない機会と考えます。もちろんそのためには、地域の関係者、団体の方々『女性の参加』も得て、避難所運営にあたる必要があると考えます。私の住む地域でも上記の方針を進めていきたいと思っています。</p>	<p>〇本計画の点検・評価にあたっては、計画掲載のアウトカム・アウトプット指標によるものに加え、10の実行計画の進捗を58の取組み内容にかかる事業や取組についてリストアップし、実施状況について確認を行うこととしています。まちづくり協議会をはじめ、各地域でも方針を定め、取組みを進めておられるまさにその一つ一つが本計画達成への核となるものであると考えております。</p>
<p>私、八尾に住んで50年木頃は畑や田んぼばかりでしたが開発が進み住宅が立ち並び町会でにぎやかになりました。しかし現在は高齢化進み若い人は大都市に出てしまっさみしいばかりです。 妻を亡くし一人暮らしに成って、ボランティア始めました。しかし今は高齢者多くなり若い人がやってくれないので後継者ないので会がなくなっていくのと、コロナの為活動が出来ないのです。若い人にやる気を引き出す講座を数多くするといっています。会に入らないで個人でボランティアをする人大勢いらっやいます。 災害時の見守りについて私あまり知りませんが私の住んでいる町会では十年前にそんな話がありました。私、この度介護保険お世話になりました。あまりにも親切で行き届いているので感謝しています。二十五年間頑張って、ボランティア活動をさせていただいたおかげです。もっと若い人を参加できる機会を作る政策をお願いします。</p>	<p>〇委員の意見のとおりボランティアもコロナ禍で活動する機会が減り、本市でもボランティア登録者が減少しています。</p> <p>今までのやり方にとらわれず、様々な世代に合致したボランティア活動の機会を増やすことや、現在ボランティアを行っている人たちと施設などのボランティアにきてほしい人たちのマッチングが容易にできる仕組みを検討してまいります。また、潜在的にある個人のボランティアをボランティアセンターが中心となって発掘し、支援ができる仕組みを併せて検討してまいります。</p>

委員の意見・質問	事務局の説明
<p>○事務事業名 老人福祉センター運営管理業務 事業内容に対する意見ではありませんが、「老人センター」という名称に違和感というか「あーあ」というあきらめを感じています。自分自身が実際に60際を過ぎているのだから「老人」と言われても仕方ないのですが、愛称をつけてみてはいかがでしょうか。障害者総合福祉センターが「きずな」と言われ続けて今やこの名前で通用しています。老人センターに愛称をつけるご検討をお願いします。</p> <p>○民生委員・児童委員事務 「おせっかい達人」の発掘・人材育成など良い取り組みが始まると期待しておりますが、支援を要する人たちへのPRも大切かと思ひます。私は日常的に聴覚障がい、特に手話で生活している人たちと日々交流をしていますが、「民生委員」という言葉は知っていても活動内容を知っている人は少ないなあと感じています。活動内容をわかりやすく(具体的な例をあげるなど)知ってもらおうという工夫が必要かと思ひます。今でもパンフレットを作られているとは思ひますが、イラスト・漫画などにしてより分かりやすく届けられると良いのではないかとと思ひます。</p> <p>○社会福祉協議会 ボランティアセンターの充実・強化 「おせっかい達人」の発掘 担い手を発掘・育成・活動は大切なことだと思ひます。おせっかいは「共助」につながります。ですから、「やってあげる」「やってもらう」というニュアンスではなく「相互扶助」のような関係が構築できたらよいのかと思ひます。そのためには、障がいを持つ持たない、また若者・高齢者などの括りは関係なく、誰でもやってみようという行動をおこす手引きが必要かと思ひます。例えば、障がい当事者が行うボランティア活動のお手伝いをやるというおせっかひがあつてもよいと思ひます。</p> <p>○認知症総合支援事業(特別会計) 「認知症」という言葉を使用していますが、認知症の入り口にいる人への支援も大切かと思ひます。「認知症予備軍」というのは失礼な言い方かもしれませんが、「認知症」という診断を受けてからでない支援ができないというのではなく、「入り口」あたりで柔軟な対応で支援が入ると、より長く本人の望む地域生活が送れるのではと思ひます。特に独居の場合は日々接している隣近所の方が異変を気づく場合が多いかと思ひます。ごみ出し日を間違えたり、会話のなかで違和感が出たりすることで、「あれっ」と気づくことがあります。本人のプライドを傷つけない形で公的支援にもつながっていけばよいと思ひます。</p>	<p>○八尾市の高齢者の方々に親しまれてきている施設であり、「老人福祉センター」としての呼び名で定着する中で、現段階で愛称を新たに付ける予定はございません。今後、施設の建て替えや運営方針の変更などがある場合には、今回のご意見を踏まえ愛称の検討を行っていきたくと思ひます。</p> <p>○八尾市民生委員児童委員協議会では、毎年5月の民生委員の日の前後に、民生委員活動についての街頭PRを行つております。民生委員活動の情報発信については、幅広い市民の皆さんに知ってもらうため、イラストや漫画など、効果的な方法を今後さらに検討してまいります。</p> <p>○第4次八尾市地域福祉計画を作成するにあつたアンケート調査では、地域活動に気軽に参加できれば参加するといった声が多いことから、参加者のライフスタイルや状況に応じたボランティア活動ができる仕組みを考えていきます。また、同時に、ボランティア活動のやりがいや魅力の発信を行つていきたくと考えております。</p> <p>○高齢者あんしんセンターでは、認知症の診断の有無にかかわらず、高齢者の総合相談・支援を行つているところす。高齢者に関する住民の皆さまからの「気づき」につきましても、相談内容により関係機関や認知症初期集中支援チームなどと連携して対応しており、住民の皆様の様々な気づきの段階においても気軽にご相談頂けるよう、さらなる周知に努めてまいります。</p> <p>また、日常生活や業務の中で、地域住民や協力事業者において、ちょっとした異変を通じて高齢者を地域で見守る「高齢者見守りサポーター」の活動に取り組んでおり、今後も一層の周知・活用を進めてまいります。</p> <p>さらに、認知症についての理解を深め、地域で温かく見守ることができるよう、認知症サポーターの養成を通じた啓発につきましても引き続き進めてまいります。</p> <p>加えて、認知症の介護予防教室への参加や地域の活動への参加等、仲間と話をすることは認知機能低下を防ぎます。その為には、身近な地域での自主活動や通いの場等、地域の人のつながりが持てるよう、地域への参加支援、地域づくり支援を進めてまいります。</p>